



明石市 環境レポート 2009

AKASHI
ENVIRONMENTAL
REPORT
2009



市長挨拶

地球温暖化に対する取り組みが国際的に行われている今日、日本においても長期目標を定めての低炭素社会づくりが行われようとしています。このような国際的・国家的目標達成のためには、市民、事業者、行政の三者が、それぞれの役割や立場に応じた、温室効果ガス削減の高い長期目標をクリアするための着実な努力や工夫を積み重ねることが重要であり、本市においてもさまざまな取り組みを行っているところです。

その一方で、自治体においてはこのような数値目標を掲げての取り組みだけでなく、多くの市民が地域の自然に触れることも大切であり、本市においても市民の手による里山整備やため池での観察会などの活動が行われているところです。このような機会を通じて自然の尊さや大切さを知り、これが地球への思いへとつながるものであると考えています。

このレポートには、自然への取り組みやくらしの中での環境問題へのチャレンジなどをはじめとして、平成20年度における本市の環境の取り組み状況を紹介しています。本レポートをお読みいただくことにより、市民の皆様が環境への取り組みを身近に感じていただき、活動への一歩を踏み出していただくきっかけとなりますことを念願するものであります。



明石市長

北口寛人

もくじ

1. 報告書をご覧くださいにあたって	2
2. 明石市のめざす環境像	3
3. めざす環境像を実現するために	4
4. リーディングプロジェクトの取り組み状況	5
5. 自然環境再生への取り組み	11
6. 地球温暖化対策実行計画の取り組み	13
7. 環境首都コンテストへの取り組み	16
8. 明石市環境マネジメントシステム	17
9. 平成20年度の事業評価表	23

添付 読者アンケート

※ 表紙は、平成20年度の第15回環境ポスターコンクールで入選した、二見西小学校 横山 佳香さんの作品です。



明石市環境レポート2009（年次報告書） お問い合わせ先

明石市環境部地球環境課 〒673-0882明石市相生町2丁目5-15（保健センター4階）
Tel：078（918）5029 Fax：078（918）5107
e-mail：plan-ems@city.akashi.hyogo.jp

1 報告書をご覧いただくにあたって

編集方針

平成20年度から平成21年度にかけての、明石市の環境に関する情報を掲載しています。対象は、市（行政委員会の事務局を含む）の環境施策と事務事業です。

本報告書には、皆様のご意見をいただくためのアンケート用紙を添付しています。記載内容や明石市の環境活動に関してのご意見、ご感想を頂けましたら幸いです。

皆様とのコミュニケーションを深めながら、ともに地球にやさしい社会の実現に貢献していきたいと考えています。

主な関連資料の一覧、入手方法

●環境事業概要

明石市の環境行政に関する組織、事業、予算、計画、環境美化整備、環境保全対策、し尿、ごみの減量化・資源化及びごみの収集・処理などの各種統計を記載しています。昭和55年から発行しています。



●明石市環境基本計画（平成19年3月改定版）

環境基本計画は、長期総合計画と連携して明石市の望ましい環境像の実現をめざすマスタープランです。

環境基本条例に基づき、まちの特性を考慮しながら、環境全般の取り組みの基本になる考え方、めざす環境像、取り組みの内容を示しています。また、市民、事業者、行政それぞれの役割を明らかにしています。



●明石市環境部地球環境課Webサイト「エコイスト」

この報告書に掲載していない詳細情報や、明石市の環境に関する各条例・計画、明石市の環境の現況、環境管理マニュアルなどをHPで公開しています。

また、ご希望がありましたらCD・印刷物でのお渡しもいたしますので、地球環境課までご連絡ください。



明石市地球環境課

検索

Click!

地球環境課Webサイト「エコイスト」

URL：http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/earth_kankyou_ka/ecoist/index.html

2 明石市のめざす環境像

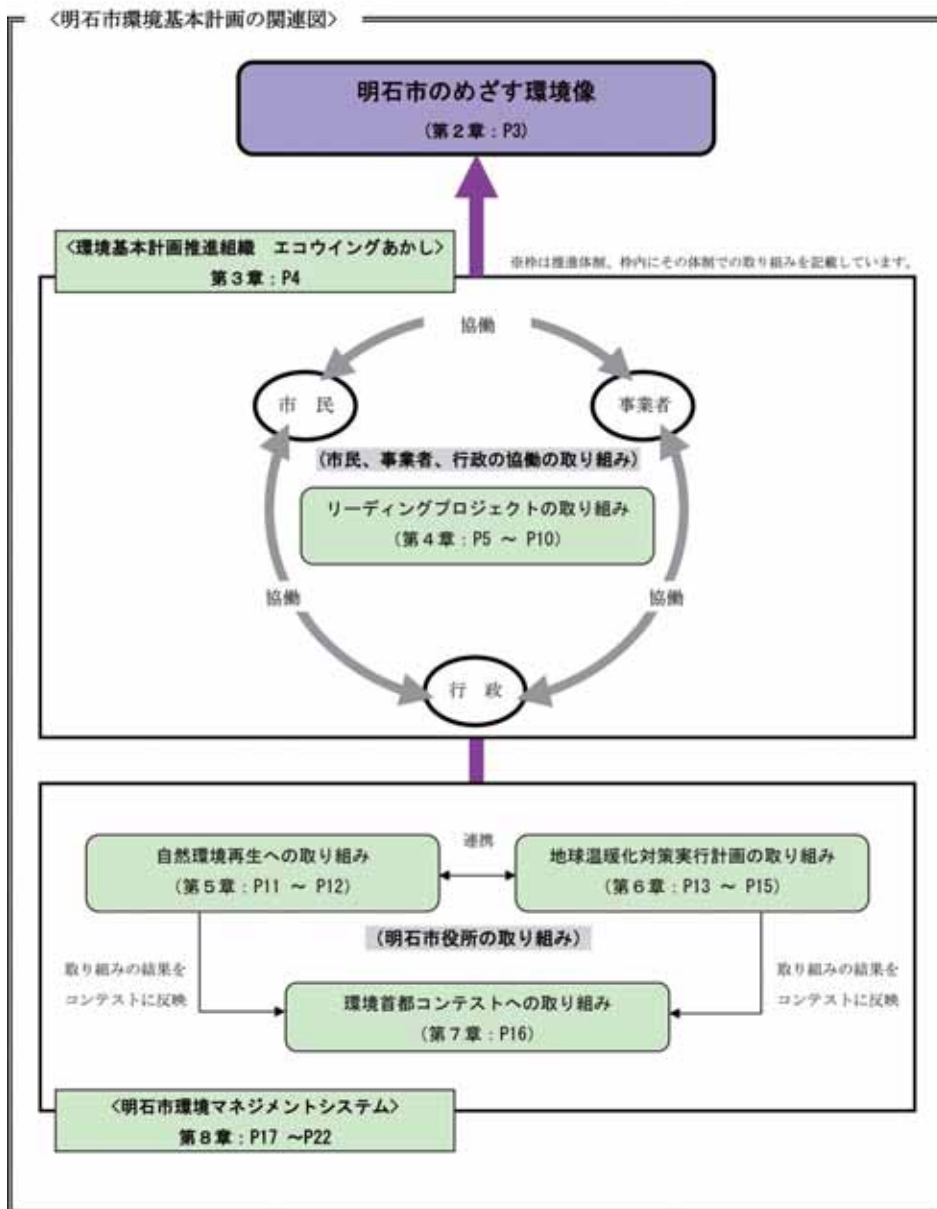
明石市環境基本計画で定める明石市の「めざす環境像」は、“おだやかな風土の中で、人々が互いに手を取り合い、地球環境から身近な自然までを大切にしながら、昔のくらしのよさを受け継ぎ、豊かな未来への夢を100年先までも持ち続けていきたい”という市民の想いを表しています。

水辺や里山は光に映え、まちには人々がにこやかに集う
 人と人が思いやり、地球のすべてをいつくしむ
 古(いにしえ)に想いをはせ、未来への希望が輝き続けるまち

明石市のめざす環境像を実現するための推進体制

明石市の「めざす環境像」を実現するためには、市民、事業者、行政の各主体での取り組み、協働の取り組み、そして推進する体制が必要です。

以下の図に、市民、事業者、行政の関連と、この報告書の記載ページを記します。



3 めざす環境像を実現するために

エコウイングあかし(明石市環境基本計画推進パートナーシップ協議会)

「エコウイングあかし」は、明石市のめざす環境像を実現するために、環境基本計画を推進するための組織です。市民、事業者、行政の三者が協働して、環境基本計画に掲げるリーディングプロジェクト（LP）に取り組んでいます。

エコウイングの「エコ」は環境一般を表し、「ウイング」は翼を表します。エコの風が大きく翼を広げ、市民、事業者、行政をつないで明石に広がるイメージとともに、東西に長い明石の地形も表しています。



リーディングプロジェクト（LP）

市民、事業者、行政が協働して実践する、環境基本計画の中の先行的な取り組みです。13項目のプロジェクトがあり、ライフスタイル、エネルギー、自然の3つに分類されます。

「エコウイングあかし」では、3つの分類ごとにグループで活動しています。各グループのリーダー、サブリーダーは概ね月1回集まり、エコウイングあかし全体の課題について検討する「企画運営委員会」を開催しています。

エコウイングあかし・平成20年度の主な取り組み

●エコウイングあかし環境セミナー「環境学習都市のひみつ」（平成20年4月23日）

NPO法人こども環境活動支援協会（LEAF）事務局長の小川雅由氏を講師に招き、環境セミナーを開催しました。

テーマは、市民、事業者、行政の「つながり」です。市民、市職員合わせて約70名が熱心に耳を傾けました。



●第2回 エコウイングあかし総会（平成20年5月11日）

会員58名（うち28名委任状）が出席して、第2回総会を開催しました。

総会后、立命館大学准教授の永橋為介氏によるワークショップ「パートナーシップのための基礎体力をつくる」を実施し、会員同士がパートナーシップについて話し合いました。



●市主催行事の共催、後援

- ・エコロジーミュージカル「ホープ・ランド」（後援・平成20年7月25日）
- ・あかし打ち水大作戦2008（共催・平成20年8月13日）
- ・あかし環境フェア2008（共催・平成21年3月8日）

4 リーディングプロジェクトの取り組み状況

ライフスタイルのグループ

●ライフスタイルに関するリーディングプロジェクト

LP1. あかし環境マイスター制度（進行中）

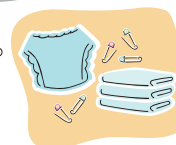
環境資格制度の合格者「環境マイスター」の活動でごみの減量などを進めます。

LP2. 暮らしの知恵伝承プロジェクト（進行中）

風呂敷や布おむつなど、知らなかった暮らしに役立つヒントをみんなで教えあいませんか。

LP3. グリーン購入推進プロジェクト（進行中）

毎日の買い物で、地球環境にやさしいことができます。その方法を明石市内に広めましょう。



平成20年度の取り組み状況

●プロジェクト推進のための会議開催（計8回開催）

●布ぞうり教室の開催、活動のPR

関連：LP2

「布ぞうりはエコでお得」をテーマに、自宅で使わなくなった古着・古布を活用した布ぞうりづくり教室を開催しました。

平成20年11月、平成21年2月にはエコウイングあかしの会員を対象に、3月には市民を対象に教室を開催しました。参加者は、熱心にオリジナルの布ぞうりづくりに取り組みました。

平成21年3月8日には、「あかし環境フェア2008」にブースを出展しました。ブースでは、①古着でつくった布ぞうり約60点を木のオブジェに展示、②布ぞうり教室の参加受付、③つくり方のデモンストレーションを実施しました。

昔の暮らしの知恵を生かして、ごみを減らせることを多くの来場者にPRできました。



●風呂敷づくりによる啓発「私だけのプチ風呂敷をつくろう」

関連：LP2、3

「あかし環境フェア2008」の環境ステージで、風呂敷づくり教室「私だけのプチ風呂敷をつくろう」を開催しました。

参加した子どもたちは、用意した布にイラストを描いて、オリジナルの風呂敷づくりにチャレンジしました。

ライフスタイルグループは取り組みを紹介するなどの協力を留まりましたが、平成21年度以降は自分たちが講師となって、風呂敷の活用法を紹介する予定です。



●環境マイスター養成講座のテキストづくり **関連：LP1**

環境マイスター養成講座のテキストづくりに関連して、「あかし環境フェア2008」で環境クイズラリーを実施しました。ライフスタイルグループだけではなく、エネルギー、自然の各ブース出展者が問題づくりに協力し、全10問を出題しました。

272名の参加があり、246名から回答がありました。

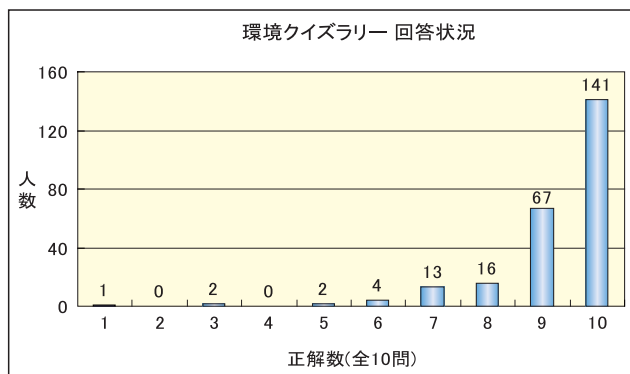


●グループ活動の実績まとめ

平成20年度に開催した布ぞうり教室、環境クイズラリーの実績をまとめました。

布ぞうり教室は、主婦層を中心に多くの問い合わせがあり、好評でした。市民対象に開催した第3回教室には、定員30名のところ倍以上の方から申し込みがあり、平成21年4月26日に教室を追加で開催しました。

布ぞうり教室	参加者
第1回（11月8日・会員対象）	10名
第2回（2月8日・会員対象）	10名
第3回（3月22日・市民対象）	32名
計	52名



今後の取り組み予定

- 毎月1回、プロジェクト推進のための会議を開催します。
- ごみ問題を中心に環境マイスター養成講座のテキストを作成し、講座を開催します。
- 環境マイスター養成講座のテキスト作成の参考にするため、明石クリーンセンターの施設見学会などを実施し、グループ内の知識向上を図ります。
- くらしの知恵を紹介する取り組みとして、布ぞうりづくりの紹介、風呂敷の使い方教室を開催します。
- 自主企画の啓発だけではなく、市内事業所の環境関連イベントにも協力し、ブース出展などに参加します。



カネン



フネン



ソダイ



シゲン

エネルギーのグループ

●エネルギーに関するリーディングプロジェクト

LP 4. マイカーの利用を考える運動（進行中）

自動車の運転を工夫することで、地球にやさしいことができるのをご存知ですか？

LP 5. 自動販売機の適正化で環境を改善する（進行中）

自動販売機は便利ですね。でもちょっと視点を変えてみませんか？

LP 6. 市民太陽光発電所プロジェクト（進行中）

環境先進国だけの取り組みではありません。市民発電で自然エネルギーへの関心を高めます。

LP 7. 家庭でできる温暖化防止（進行中）

ほんの少しのことからできる温暖化防止があります。できることから始めましょう。



平成20年度の取り組み状況

●プロジェクト推進のための会議開催（計12回開催）

●あかし環境フェアにおける活動のPR **関連：LP 4～7**

平成21年3月8日「あかし環境フェア2008」で、①プロジェクトのパネル展示や活動チラシの配布、②ソーラーカー作り教室を実施し、エネルギーグループで取り組んでいる活動をPRしました。



●エコドライブ講習会の開催（平成21年1月28日・29日）

㈱日本自動車連盟（JAF）から講師を招き、グループメンバー向けの講習会を開催しました。

エコドライブを行っているときのエンジンのメカニズム等の、技術的なことも非常に分かりやすく解説していただきました。この講習会は、今後グループメンバー自身が講師となり、市民向けに講習会を開催するための“講師養成講習”の意味をもっています。

エネルギーグループ以外のメンバーもあわせて、2日間で計39名が参加しました。

関連：LP 4



●自動販売機設置状況調査の実施

関連：LP 5

グループメンバーで自動販売機の配置状況を調査しました。少人数で実施したために、苦労もありましたが、収集したデータは自動販売機のあり方を検討する上で、不可欠です。今後のプロジェクト推進に生かします。

●市民共同発電所に関する講演会の開催と先進事例の視察

関連：LP6

市民共同発電所や、自然エネルギーの専門家を講師に招き、講演会を開催しました。

平成21年2月24日、先進事例である岡山市の中山保育園を視察し、行政担当者と実施主体であるNPO法人おかやまエネルギーの未来を考える会の廣本悦子会長から、発電施設設置で苦労した話などを伺いました。



市民からの寄付により設置された
太陽光発電施設（岡山市）

市民共同発電所に関する講演会実績

講演会日時	場 所	内 容
平成20年8月28日	男女共同参画センター	講師：神戸まちづくり研究所の能村聡氏 内容：「市民共同の自然エネルギー発電所づくり」の講演会（参加者 約25名）
平成20年12月20日	市立文化博物館	講師：元立命館大学教授の和田武氏 内容：「自然エネルギー普及と市民の役割」の講演会（参加者 約50名）

●チーム・マイナス6%の登録

関連：LP7

エコウイングあかし会員、市民に呼びかけ、環境省の「チーム・マイナス6%」にチーム登録しました。賛同するメンバーを募集しています。

登録No. 「20680895」 登録チーム名「ゆほびか」

今後の取り組み予定

- プロジェクト推進のための会議を定期的に行います。
- エコドライブを普及させるため、グループメンバーが講師になって、講習会を開催します。
- 自動販売機設置状況調査のデータを整理して、市民向けの報告会を開催し、自動販売機のあり方を検討します。



- 市民共同発電所を建設するため、実施主体となるNPO法人を立ち上げます。
- 「ゆほびか」のメンバー拡大を図り、情報を共有し合い、協働で地球温暖化対策に取り組みます。

自然のグループ

●自然に関するリーディングプロジェクト

LP 8. 水でつながる明石の自然プロジェクト～コウノトリきて!ウミガメきて!大作戦～(進行中)

明石の代表的な自然である「水」(海、川、ため池…)の環境を改善し、コウノトリがやってくる自然環境を明石に作ります。可能性はゼロじゃない!?



LP 9. 明石に“ふれあいの里山”を復活させよう!! in 金ヶ崎公園(進行中)

夏休みにカブトムシやクワガタを捕まえた思い出。ずーっと明石に残しましょう。

LP 10. 地産地消あかし流=えこめぐり(検討中)

地産地消って明石でもやってるの?できるの?環境とどんな関係があるの?



LP 11. みどりのコーディネーター・プロジェクト(検討中)

まちにみどりを増やしたい市民と行政の緑化施策をつなぎます。

LP 12. “古(いにしえ)の今”を次世代につなぐ「明石のよいところ」プロジェクト(進行中)

私だけが知っているんじゃない「明石のよいところ」!

LP 13. 自然環境ナビ(検討中)

たくさんある明石の自然(動植物、里山…)の情報をもっと見やすく。もっとわかりやすく。

平成20年度の取り組み状況

●プロジェクト推進のための会議開催(計16回開催)

●「明石の自然歩き隊」の開催 関連: LP 8、12

明石には、里山、水田、ため池、水路、川、海へと「水の流れ」でつながる豊かな自然環境と、歴史文化が今もたくさん残っています。そんな、身近にある自然に興味を持ってもらい、エコウイングあかしで進める自然グループの取り組みについても知ってもらいました。

第2弾「江井島駅～八木遺跡公園」	
日 時:平成20年6月8日	西灘の酒蔵⇒海のゆりかご「アマモ」⇒明石原人・住吉神社 ⇒瓦工場跡と古民家群(参加者 80名)
第3弾「大蔵谷旧宿場町～明石公園」	
日 時:平成20年11月23日	大蔵谷旧宿場町⇒本陣跡・モチノキの古木⇒子午線標識 ⇒明石公園(参加者 40名)

●「明石の自然歩き隊」冊子の制作 関連: LP 8、12

過去に行った市内3エリアの「明石の自然歩き隊」。自然や歴史文化スポットをルートごとにとめた冊子を制作しました。

● “ふれあいの里山” 復活大作戦。オープニング記念講演会の開催

関連：LP9

環境基本計画のリーディングプロジェクトの一つ「明石に“ふれあいの里山”を復活させよう！in金ヶ崎公園」の取り組みを立ち上げるにあたり、講演会を開催しました。

日時：平成20年12月14日	場所：金ヶ崎公園
(内容)	
①主催者挨拶・プロジェクトの説明：エコウイングあかし 川島幸夫氏	
②里山の大切さ、里山整備について(明石に求められる里山像)：兵庫県立大学教授 服部保氏	
③里山整備活動について：NPO法人ひょうご森の倶楽部 会長 福田正氏	
④今後の金ヶ崎公園の整備について：エコウイングあかし 森逸男氏	
⑤公園内整備予定地視察、現地指導：兵庫県立大学教授 服部保氏	
(参加者 50名)	

※金ヶ崎公園：魚住町の金ヶ崎にある、市内でも数少ない自然の残された公園です。エコウイングあかしの里山活動の拠点になっています。(住所：明石市魚住町金ヶ崎1541-1)

● “ふれあいの里山” 復活大作戦。里山整備の基本を一緒に学びましょう！の開催

関連：LP9

「明石に“ふれあいの里山”を復活させよう！in金ヶ崎公園」の現地作業が始まりました。

日時：平成21年2月28日	場所：金ヶ崎公園
(内容)	
植生調査の目的、方法と実地作業：兵庫県立人と自然の博物館 黒田有寿茂氏	
(参加者 30名)	

● 海草アマモによる里海の創生について

関連：LP8

日時：	場所・内容：
平成20年6月21日	江井島海水浴場にて、アマモの種取り
平成20年11月20日	江井島小学校にて、3年生がアマモポット苗を製作
平成21年3月5日	江井島地先海域への育成ポット苗の移植

今後の取り組み予定

- プロジェクト推進のための会議を12回開催します。
- “ふれあいの里山” 復活大作戦で、里山の植生調査、月1回の里山整備を実施します。
- 「エコ炭銀行」と協働して竹炭製作を実施するとともに、金ヶ崎公園にて、「水でつながる」明石の自然を紹介するイベントを実施します。
- 明石市の里山、里地、里海振興施策に協力し、各種団体と交流しながら、活動範囲を広げていきます。

5 自然環境再生への取り組み

明石は、里山、ため池、水田、川、海岸、海域など多様な自然環境に恵まれています。それぞれにおいて様々な団体が自然環境保全活動や啓発活動などを行っています。明石の素晴らしい自然環境を後世に残していくために、身近な自然を見守っていきましょう。

「明石の自然歩き隊」の発行

エコウイングあかし自然グループと協働して、明石の自然や歴史文化スポット3ルートをもとめた冊子を発行しました。

また、既刊の情報誌に明石の自然環境を紹介している「知っとこ明石」が4編あります。

上記の冊子は当課で配布するほか、地球環境課のWebサイト「エコイスト」でダウンロードすることもできます。



自然環境調査の実施

市は市内の自然環境の状況を継続的に確認し、環境の変化について追跡調査を行っています。平成20年度は実地調査のほか、最近行った市内の自然環境に関する調査を収集、整理しました。

ため池 水生動植物の保全

大久保町江井島を中心とした市内のため池には、多くの種類の水生植物が生育しています。希少種も多いことから、市では、ため池の水質改善をはじめ、水生植物保全の方法を検討しています。

特にオニバスは、西日本有数の群生地として知られており、毎年観察会が開催され、多くの人の興味をひきつけています。



里山 樹林域の保全

「里山」は大久保北部丘陵地域と金ヶ崎地区の2箇所に残っています。

里山の環境は、人の手が入ることで多くの生きものが再生し、生態系のバランスが保たれています。

市ではエコウイングあかしと協働し、金ヶ崎地区の里山整備を進めています。

整備する里山は、昔のような生活密着型の利用ではなく、市民の環境学習の場、特に子どもの自然環境体験学習活動の場として利用することとしています。



河川 河川の保全

市内を流れる河川には、ウナギ、タモロコ、メダカなどの魚類や、ヨシ、マコモ、ヒメガマなどの植物がみられます。これらの中には希少な生きものも含まれており、地域の「川を守る会」などが、見守り活動を行っています。

これらの河川は、上流から流れてきたごみが中州などにたまり、自然環境によくない状況が生じるので、「川を守る会」により定期的な清掃が行われ、河川環境が保全されています。



海岸 陸域・海域の保全

市内の中西部の海岸は人工的に造られた海浜がほとんどですが、整備後の時間が経つにつれて自然環境を取り戻すようになってきています。

海浜の陸域ではコウボウシバ、ハマボウフウ、ハマエンドウ（右上写真）などの海浜植物が定着しています。

海域ではアマモ（右下写真）に代表される海草、ワカメ、カジメなどの海藻、インダタミなどの巻貝のほか多くの魚介類が見られます。

特にアマモは、海域の生態系において重要な位置を占めていることから、市では、小学生などにアマモのポット苗を育ててもらい、海域に移植してアマモを増やす活動を行っています。

かつては明石の海岸にアマモの大群落が見られたそうですが、現在では小さな群落が所々に見られる程度まで減少しています。一度失われた環境が再生するのは簡単ではありませんが、多くの人の手を借りて、多様な生きものを育むアマモ場を広げ、賑わいのある『里海』の創生を図ります。



沿岸海域 沿岸海域の保全

明石は全国でも屈指の沿岸漁業の生産地で、多くの種類の魚介類が水揚げされます。

明石海峡の潮流の影響で沿岸海域は良好な水質で、海底も起伏に富み、多種多様な生きものが生息しています。クジラの仲間のスナメリや、きれいな海にすむナメクジウオ、ウチムラサキをはじめとする二枚貝などは数を減らし、希少な生きものとなっています。ウチムラサキを海域にまく試験も地元関係者により行われていますが、目立った効果はみられていません。



6 地球温暖化対策実行計画の取り組み

明石市地球温暖化対策実行計画とは

明石市では「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、平成13年3月に市役所の事務や事業による温室効果ガスの排出抑制を目的とする「明石市地球温暖化対策実行計画」を定めています。平成19年3月には、計画をより実効性の高いものへと改定しました。（以下の「地球温暖化対策実行計画」は改定後のものです。計画の内容については、Webサイト「エコイスト」で公開しています。）

平成20年6月に法改正があり、市役所だけでなく地域の事業者、住民による省エネや温室効果ガスの排出抑制の推進などが求められています。市が策定する新たな実行計画では、更なる温室効果ガスの排出抑制にそれぞれの協力が必要になります。

明石市役所の事務事業から排出した温室効果ガス量

平成20年度の市役所の事務・事業による温室効果ガスの排出量は、二酸化炭素に換算すると99,987,070 kgでした。これを杉の木の本数に見立てると、吸収するには約7,142,000本の杉の木が必要です。植林密度を700本/haとすると明石市の面積の2倍（約10,203ha）の杉林が必要と考えられます。

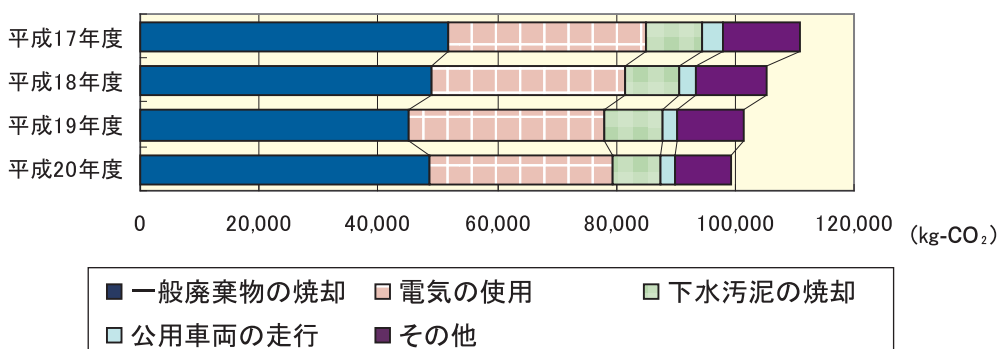
温室効果ガスの排出量は、実行計画の基準年（平成17年度）と比較して9.8%減少しています。この削減量は約775,000本の杉の木が吸収する量に匹敵します。

排出源の内訳は、一般廃棄物の焼却、電気の使用、公用車両の走行などです。特に排出割合の多い、電気使用量の削減や焼却する廃棄物に含まれるプラスチック類の減量を更に進める必要があります。

※ 杉の木1本あたりのCO₂吸収量：14kg/本・年（環境省・林野庁による）

市の事務事業から排出された温室効果ガス排出量 単位 kg-CO₂

種 類 / 年 度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
一般廃棄物の焼却	51,905,637	49,037,869	45,078,357	48,511,754
電 気 の 使 用	33,064,295	32,492,683	33,070,587	30,901,906
下水汚泥の焼却	9,447,694	9,139,542	9,558,559	8,058,084
公用車両の走行	3,430,625	2,607,063	2,564,768	2,512,770
そ の 他	12,995,153	11,896,666	11,261,009	10,002,556
合 計	110,843,404	105,173,823	101,533,280	99,987,070
対17年度削減率	—	-5.1%	-8.4%	-9.8%



温室効果ガス排出の個別の状況

●一般廃棄物の焼却

一般廃棄物の焼却による温室効果ガス排出のほとんどは、廃プラスチックに起因するものです。焼却ごみの組成分析から推計した、平成20年度の廃プラスチック焼却量は17,323tでした。（平成17年度比：7.2%減少）

●電気の使用

平成20年度の電気使用量は80,473,713 kWhでした。（平成17年度比：6.5%減少）電気使用量は、気候的な要因により変動するため、更に削減を進める必要があります。

市の事務事業で使用した電気使用量 単位 kWh

種類／年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
水道	29,533,231	27,567,118	27,947,616	25,835,684
下水道	25,969,536	25,566,514	26,258,710	25,222,193
学校園	7,066,214	7,126,674	7,278,364	7,219,939
市民病院	5,092,513	5,103,566	5,361,898	5,131,472
街灯	3,639,342	3,675,000	3,815,491	3,405,590
その他	14,804,098	15,577,490	15,459,242	13,658,835
合計	86,104,934	84,616,362	86,121,321	80,473,713
対17年度削減率	—	-1.7%	0.0%	-6.5%

市役所では「ごみ焼却熱」を有効利用した発電を行っています。発電した電気は明石クリーンセンターの各施設、隣接庁舎へ供給しています。余った電気は関西電力に売電しています。平成20年度の売電量は23,573,200 kWhでした。

●公用車両の走行

平成20年度の事務関係公用車両のガソリン使用量は171,775 l でした。（平成17年度比：20.0%減少）

市バス車両やごみ収集車など公用車両の軽油使用量は774,232 l でした。（平成17年度比：29.1%減少）

市役所では公用車両の台数を年次的に減らし、従来の石油燃料車に替え、二酸化炭素、窒素酸化物、粒子状物質などの排出を抑制するため「低公害車」を導入しています（明石市低公害車導入計画：平成16年10月）。現在はごみ収集車を主に、天然ガス車を計8台導入しています。



地球温暖化対策の啓発活動

あかしブラックイルミネーション2008（平成20年6月21日、7月7日）

6月21日（夏至の日）から7月7日（洞爺湖サミット初日）まで、地球温暖化防止の全国的な節電行動としてライトアップ施設や家庭の電気を消灯する「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」が実施されました。

明石市でも、6月21日・7月7日の午後8時から10時の2時間、市役所のライトアップ施設や明石駅前周辺のネオンサイン等の消灯を実施しました。



エコロジーミュージカル「ホープ・ランド」（平成20年7月25日）



明石市民会館大ホールで劇団ふるさときゃらばんによる、地球温暖化問題をテーマにしたエコロジーミュージカル「ホープ・ランド」を上演しました。

明石市が主催し、エコウイングあかし会員、兵庫県地球温暖化防止活動推進員などの協力で開催しました。市民団体や環境活動グループ、市職員など約700名の方が観劇しました。

あかし打ち水大作戦2008（平成20年8月13日）

都市部のヒートアイランド現象を緩和して、暑い夏を快適に過ごすための日本古来の知恵「打ち水」を紹介する取り組みです。市立天文科学館の玄関前一带で、約200名の協力により実施しました。

天文科学館のシゴセンジャー、明石観光大使の2人がゲスト出演し、参加者は楽しみながら冷房に頼らない“涼”を体感していました。

水は、市立明石小学校の水泳プールの使用水を再利用しました。



●平成20年度の実施結果（打ち水前→打ち水後）

気温：32.3℃ ⇒ 30.9℃（-1.4℃）

地表温度：45.4℃ ⇒ 36.0℃（-9.4℃）

打ち水効果：熱せられた地面に水をまくと、水が地面の熱を奪って蒸発します。熱を大気中に逃がす効果で地面の温度が下がり、気温も低く抑えられます。

地球温暖化防止ハンドブック



地球温暖化に関する知識を深めてもらい、地球温暖化防止のために、どのような行動を取ればいいのか理解してもらうため、「ぼくたちの地球を守って ～地球温暖化防止ハンドブック～」を作成しました。

市関係の施設で配布するとともに、親子で地球温暖化について考えるきっかけにしてもらうため、市内の小学校高学年全員に配布しました。また、地球環境課Webサイト「エコイスト」からもダウンロードできます。

7 環境首都コンテストへの取り組み

環境首都コンテストとは

明石市は、前回から4年ぶりに「環境首都コンテスト」に参加しました。

「環境首都コンテスト」では、日本全国の環境問題に取り組むNGOが理想とする自治体の姿を基に設問が設定され、参加自治体はそれに回答します。コンテストの結果は、環境についての“理想の自治体”に、明石市がどれだけ近づいているかを表しています。

コンテストへの参加は、得意分野を更に伸ばし、チャレンジ分野への財政面・人材面の効果的投資を市役所全体で考える良い機会となります。

平成13年度から平成22年度までの10回の開催予定のうち、明石市は第2回（平成14年度）から第4回（平成16年度）と、第8回（平成20年度）に参加しました。残りの第9回、第10回にも参加する予定です。



第8回（平成20年度）環境首都コンテストの結果

●総合 18位（67自治体中）／人口規模別 7位（23自治体中）

前回の平成16年度より、**総合で16ポイント**、
人口規模別で**2ポイントアップ**しました。

●明石市の得意分野

「アジェンタ・環境基本計画」、
「環境マネジメントシステム」、「情報公開」

●明石市のチャレンジ分野

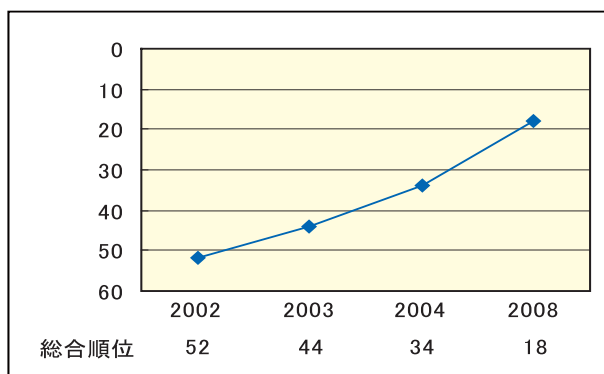
「地球温暖化防止」、「環境産業推進」

「環境首都コンテスト」の結果から、明石市の得意分野と、これから力をいれる必要があるチャレンジ分野が明らかになりました。

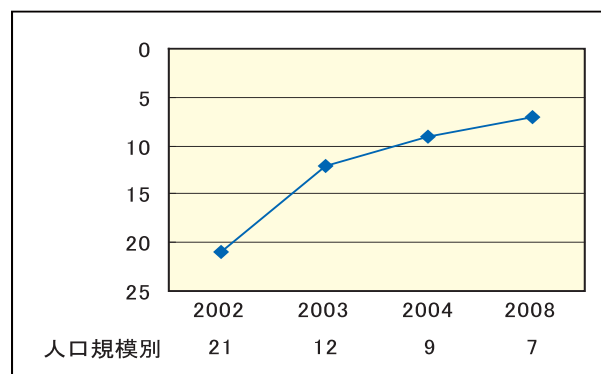


順位の推移

(総合順位)



(人口規模別)



8 明石市環境マネジメントシステム

環境基本計画では、市民、事業者、行政の協働によるリーディングプロジェクトと、明石市（行政）の施策による推進を掲げています。環境基本計画の進捗管理、環境の継続的な改善のために、平成12年度から「環境マネジメントシステム」を導入しています。

明石市環境マネジメントシステムとは

環境マネジメントシステムは、企業や地方公共団体等が積極的に環境保全行動に取り組み、自主的・継続的に改善する仕組みです。

明石市では、環境基本計画の進捗を管理するため、平成12年度に「環境マネジメントシステム」を導入し、国際規格ISO14001を平成13年3月14日に認証取得しました。

平成19年3月13日からは、「自己宣言」方式へ移行しています。「自己宣言」は、外部審査機関による審査を受けずに、規格との適合性を自ら判断し、宣言する方式です。環境配慮意識が職員に浸透してきたことから、市の実情に沿ったシステム構築のため移行しました。



明石市環境マネジメントシステムの適用範囲

明石市環境マネジメントシステムの適用範囲は、市役所本庁舎と市関連施設の事務・事業活動です。

●システムを運用するしくみ（PDCAサイクル）

- ① **P L A N**：環境保全のための方針を立て目標を設定し、具体的な行動計画を立てる
- ② **D O**：行動計画を実施する
- ③ **C H E C K**：行動計画が適切に運用されているか実施状況や成果を点検する
- ④ **A C T I O N**：点検結果を参考にシステムを見直し、改善する



①～④の繰り返し（＝PDCAサイクル）により、継続的なシステムの改善を図ります。

自治体間相互環境監査システム会議

環境マネジメントシステムの透明性、信頼性をより高めるため、5市（尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、明石市）の相互環境監査システムを構築しています。

5市で締結した「環境マネジメントシステムに係る自治体間相互環境監査に関する覚書」に基づき、平成20年度は尼崎市、西宮市の職員が明石市内部環境監査に監査員の一員として参加しました。明石市からは尼崎市、宝塚市の監査に参加しました。



環境目的・環境目標の取り組み

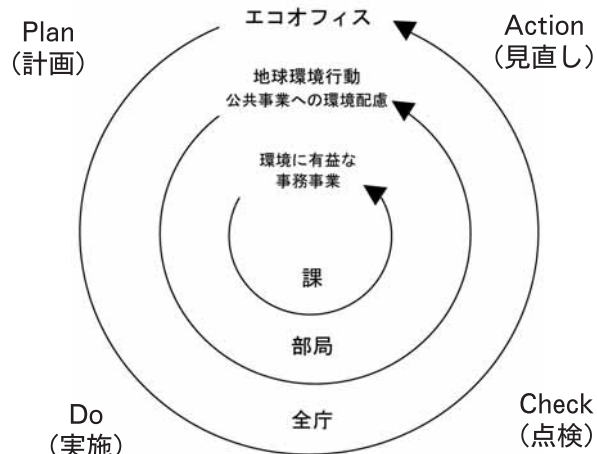
「環境目的・環境目標」として、市役所の事務・事業活動で環境に特に良い影響を与えるもの、悪い影響を与えるものを抽出しています。抽出した項目に、目的・目標・行動計画を設定し、その達成に向けて取り組んでいます。

平成20年度は、市役所全体での取り組み、部局ごとの取り組み、課ごとの取り組みと、各階層で目標を設定し、相互作用で環境改善が進むしくみづくりに取り組みました。

環境目的：概ね3年の計画期間について設定する
中期的な到達点

環境目標：環境目的を達成するために年度ごとに
設定する到達点

- 該当部局での取り組み「公共事業への環境配慮」
- 市役所全体での取り組み「エコオフィス」
- 部局での取り組み「地球環境行動」
- 課での取り組み「環境に有益な事務事業」



環境目的・環境目標のPDCAサイクル図

該当部局での取り組み 「公共事業への環境配慮」

市役所の公共事業を実施する部局では、「明石市の公共事業における環境配慮指針」に基づいて、事業の環境配慮に取り組んでいます。指針には、全公共事業の共通事項の他に、建築・農水・道路・海岸・河川・公園・下水・水道について個別のチェック項目があり、①計画、②設計、③施工の3段階で評価を実施します。

各部局では、評価結果から総括と翌年度の目標設定をし、事業改善に取り組んでいます。

公共事業への環境配慮 平成20年度の実施結果

市の該当部局	目標値	実績値	目標比向上	目標達成
産業振興部	66.70%	84.85%	+18.15%	○
土木部	90.00%	88.80%	-1.20%	×
都市整備部	78.75%	80.42%	+1.67%	○
下水道部	78.33%	82.84%	+4.51%	○
水道部	85.40%	85.35%	-0.05%	×

※ 各部局は実施する公共事業、チェック項目が異なるため、結果には差が生じています。

平成20年度は上記の5部で取り組み、うち3部で目標を達成しました。事業を実際に進める際に当初予定から変更等が生じたことで、残り2部では目標を達成できませんでした。

なお、明石市全体での環境配慮率は84.5%と、80%以上を達成しています。

市役所全体での取り組み「エコオフィス」

市役所の事務活動で発生する「コピー用紙の使用」、「ガソリンの消費」、「電気の消費」、「都市ガスの消費」の4項目に目標値を設定し、省資源・省エネルギーに取り組みました。

エコオフィス 平成20年度の実施結果（市役所全体）

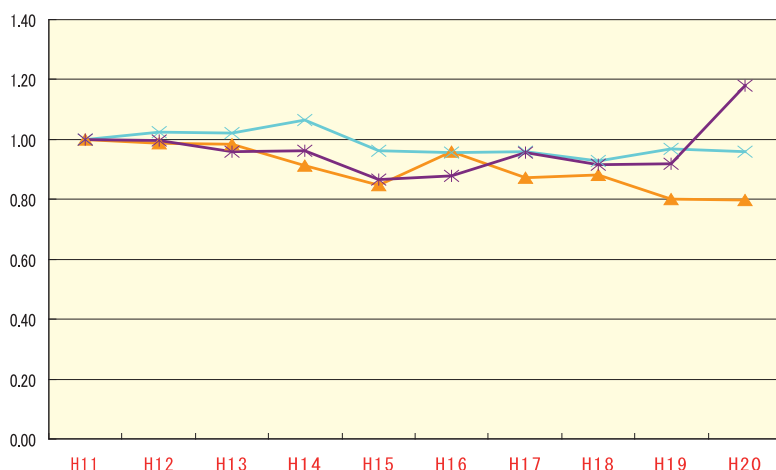
項目	目標と結果	目標達成
コピー用紙の使用	【目標】平成19年度値を維持	×
	【結果】17,917,000枚（=269,500枚の増加） ⇒ 明石市職員1人あたり約70枚の増加	
ガソリンの消費	【目標】平成19年度値を維持	○
	【結果】84,688 L（307 Lの削減） ⇒ 公用車 明石－東京間 約3往復分の削減 ※1	
電気の消費	【目標】平成19年度から4%削減	×
	【結果】2,761,862kWh（22,013kWh=0.7%の削減） ⇒ 家庭に置き換えて考えると… 約5世帯の年間消費量と同等分を削減 ※2	
都市ガスの消費	【目標】平成19年度から2%以内に増加抑制	×
	【結果】89,540m ³ （=18,436m ³ の増加） ⇒ 家庭に置き換えて考えると… 約47世帯の年間消費量と同等分の増加 ※2	

※1 燃費12.6km/L（平成21年度の明石市所有の軽自動車）で計算

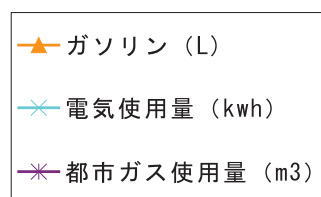
※2 1世帯あたりの年間電力消費量を4,500kWh/年、都市ガスの年間消費量を390m³/年で計算

平成19年度比で目標設定しましたが、ガソリンを除き、目標を達成できませんでした。電気消費量は昨年度比で減少していますが、目標に届きませんでした。都市ガスの消費量が大幅に増加しているのは、庁舎施設の冷暖房機器の緊急トラブルが原因です。

下表は、平成11年度からの推移を表しています。



※コピー用紙は、平成19年度に大幅な見直しがあり、過去の比較からは除外しています。



パフォーマンス効果（平成11年度比）

部局での取り組み 「地球環境行動」

平成20年度から開始した新たな取り組みです。市役所の各部局で、「地球環境への負荷を減らすための行動」について目標を設定し、達成に向けて取り組みました。

平成20年度は「本来業務を進めることが環境への配慮につながる」をテーマに、23部局、25項目を対象に実施しました。

以下に、自部局だけでなく市民や事業所、市役所の他部局に展開した事例を挙げています。P 23～P 24には、事業評価表（一覧表）を掲載しています。

●保険・健康部「階段利用の推進による健康づくり」

メッセージバナーを活用して階段利用を推進し、地球環境への負荷を減らす取り組みです。階段利用は健康だけでなく、エレベーター・エスカレーター等のエネルギー消費量を削減するのにも効果があります。

平成20年度は公共機関2箇所（市立保健センター、明石健康福祉事務所）、商業分野2箇所（コープ鳥羽、ステーションプラザ）で実施しました。



市立保健センター内階段

●財務部 「公用自転車の利用促進」

市役所の公用自転車の利用を促進し、ガソリンの使用量を抑制して、地球環境への負荷を減らす取り組みです。市役所で長期間使用していた公用自転車を新車に改め、保有台数を増やしました。

市職員用のHPで職員に、公用自転車の利用促進を呼びかけました。平成21年度は更なる利用増加を目指します。



市役所職員への利用案内

地球環境行動 平成20年度の各部局評価（23部局 25項目）

達成度	実施時期	環境目標の達成状況 （各部局年間評価）	全体に占める 割合
実施可能だが未実施or未達成（0点）		0項目	0.0%
期待を下回る（1点）		1項目	4.0%
期待どおり（2点）		21項目	84.0%
期待を上回る（3点）		3項目	12.0%
実施予定なしor完了済（-）		0項目	0.0%

課での取り組み「環境に有益な事務事業」

環境基本計画で定める、行政が主体的にすすめる45の取り組みを中心に、市役所の各課で取り組む環境に良い影響を与える事業を抽出したものです。原則四半期ごとに自己評価し、改善に取り組みました。

平成20年度は「本来業務を進めることが環境への配慮につながる」をテーマに、46課、106項目を対象に実施しました。

以下に、自課だけでなく地域住民などに展開した事例を挙げています。P24～P30には、事業評価表（一覧表）を掲載しています。

●都市整備部都市計画課「わがまちあかし十景による啓発」

環境基本計画で定める、良好な都市景観の形成を推進するために、「わがまちあかし十景」のカレンダー、新名刺台紙を作成し、広く景観のPRを行いました。

また、景観ウォーク等も好評で、平成21年度以降も引き続き啓発活動を実施します。



●教育委員会 明石商業高等学校「地域の環境美化活動」

（平成20年度 新規目標）

第3学年の通学路（魚住駅～明商）ごみ拾い清掃を実施し、環境美化に取り組みました。当日は小雨の中で実施しましたが、参加した生徒140名は、ごみ袋40袋分を回収し、予定通りの成果がありました。

清掃中には地域の方々に声をかけられるなど、地域とのコミュニケーションが生徒たちの励みになりました。平成21年度も環境美化活動を継続して実施します。



環境に有益な事務事業 平成20年度の各課評価（46課 106項目）

達成度	実施時期	環境目標の達成状況 （各課年間評価）	全体に占める 割合
実施可能だが未実施or未達成（0点）		0項目	0.0%
期待を下回る（1点）		8項目	7.5%
期待どおり（2点）		80項目	75.5%
期待を上回る（3点）		16項目	15.1%
実施予定なしor完了済（-）		2項目	1.9%

明石市内部環境監査の実施

内部環境監査は、明石市環境マネジメントシステムが、ISO14001規格の要求事項に適合しており、かつ、そのシステムが有効に機能しているかを評価するために実施しています。

内部環境監査の結果は、環境管理総括者（市長）による見直しの際、内部環境監査結果報告書として、情報提供されます。

また、監査で指摘もしくは提案のあった項目については、是正が行われ、次年度の環境目標の設定等に反映されています。



内部環境監査員研修の受講



研修のグループワーク

平成20年度の内部環境監査

環境管理総括者（市長）が任命した内部環境監査責任者、同副責任者、主任内部環境監査員、及び内部環境監査員の36名体制で、平成20年度の内部環境監査を実施しました。

市役所の対象部局、課に10月から11月で実施した結果、不適合1件（研修に関する事）、観察事項3件（研修に関する事2件、手順の制定に関する事1件）、改善提案1件（環境目標の設定に関する事）を確認しました。これらは、全て是正措置が完了しています。

● 優れている点や他の模範とすべき点

日常業務の中で環境への配慮を意識づける内容など、14課から事例報告がありました。

- ・ 会議室を利用する地域住民への啓発（冷暖房温度の適正化、不要な照明の消灯）
- ・ 市議会議員の控え室への紙分別ボックスの設置 など

環境管理総括者（市長）による見直し

毎年度末、環境管理総括者（市長）が環境マネジメントシステムの見直しを行います。平成20年度は、平成21年3月25日に実施しました。指示事項は、以下の3点です。

- (1) 内部環境監査について実施しやすい環境と体制を整えること。
- (2) 環境目的及び環境目標を設定しやすくなるような工夫をすること。
- (3) 環境に対する職員の高い意識を保つため、環境マネジメントシステムを取り組みやすいものにする事。

9 平成20年度の事業評価表

平成20年度に実施した明石市の各部局の取り組み「地球環境行動」、各課の取り組み「環境に有益な事務事業」の内容と評価について、以下の一覧表に掲載しています。

(地球環境行動：23部局25項目)

部局名	行動内容	H20年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
政策部	エレベーターの使用を控える	2 up 2 downは階段を使用する	階段利用促進のチラシを各課で掲示して、使用抑制に取り組みました。	○
中心市街地活性化プロジェクト	共有文書のネットワーク化による紙使用量の削減	共有文書のネットワーク化	共有フォルダを活用して文書を共有化し、紙の使用量を削減することができました。	○
総務部	時間外勤務時間の削減による省エネルギー、省資源の推進	H19年度実績比で、1%の時間外勤務時間数の削減	職員の応援体制を充実させ、弾力的な事務配分を行い、目標を達成できました。	◎
財務部	公用自転車の利用促進と、その環境整備、啓発の強化	公用自転車の利用促進、ガソリン使用量の抑制（公用自転車 5台増車）	新車更新、保有台数の増車（5台）を行い、職員用HPで職員に利用を呼びかけました。	○
コミュニティ推進部	2km以上離れた出張には自転車・公共交通機関を利用する	出張方法の見直しを図り、できる限り公用自動車を使用しない	自主研修により目標を周知、専用の出張簿を作成し、自動車使用を抑制できました。	○
文化芸術部	生涯学習センター内の会議室の、空調機器等の消し忘れ防止	消費電力の削減に努める	施設利用者への周知や、職員による巡回を実施し、消費電力を削減できました。	○
福祉部	イベント時に会場で発生するごみの分別を徹底する	イベント時のごみ分別の徹底	環境にやさしいイベントを心がけ、ごみの分別の徹底により、排出量を低減できました。	○
保険・健康部	階段利用の推進による健康づくり	市民及び市内企業による、階段利用の推進	公共機関2箇所、商業分野2箇所でメッセージバナー貼付を実施し、啓発しました。	○
環境部	環境出前講座を定期的開催し、地球温暖化防止を呼びかける	環境部全体で50回の講座開催（平成19年度実績：13回）	関係機関を通じ積極的に講座をPRし、目標を上回る60回の講座を開催できました。	○
産業振興部	イベント時のごみの分別徹底と、公共交通機関の利用促進	イベント時のごみの分別・公共交通機関の利用を徹底する	イベントでマイバッグ持参の呼びかけ、ごみの分別場所を記載したマップ配布を行いました。	○
土木部	公共交通機関の利用促進	「たこバス」の利用促進（年間利用者数：750,000人）	目標に対し717,971人と95.7%の達成でした。利用実態からルートの見直しを行います。	△
都市整備部	都市公園の整備	基盤整備及び施設整備を実施（0.2ha整備・全1.1ha）	3カ年の計画に基づき、防災設備を整備し、整備目標を100%達成できました。	○
下水道部	「循環のみち(環境負荷の低減)」に向けた啓発の実施	下水道に関するイベントの充実、市民への広報活動の拡充	積極的な地元説明会開催、下水道展や出前講座など市民への啓発を拡充しました。	○
会計室	審査等に必要帳票の削減、添付書類の簡素化を図る	各課会計担当者への指導及び研修を実施する	実務研修会の実施、紙ベース資料のFDデータ化により、大幅にごみを削減できました。	◎
市民病院事務局	環境負荷の低いものへの転換、消費エネルギーの低い機器へ更新	灯油の使用について、可能な限り都市ガスへ転換する	冬季の主燃料を灯油から都市ガスに変更したことで、CO ₂ 排出量を約100t削減できました。	○
交通部	市バス運行に係る軽油消費量の軽減を図る	バス運転について、低燃費走行を実践する	アイドリングストップが浸透し、軽油使用量をH19年度比で約2.1%削減できました。	○
水道部	老朽管の布設替えによる漏水の防止及び減少	老朽管布設替え 4,050m 布設替進捗率 38.3%	漏水調査の強化等に取り組んだ結果、目標比で124%の布設替えを実施できました。	◎

※達成度：各部局の年間自己評価 / ◎=期待を上回る、○=期待どおり、△=期待を下回る、×=未実施、—=完了済

部局名	行動内容	H20年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
教育委員会事務局(1)	リサイクル図書の推進	資源の有効活用・リサイクル啓発	リサイクル図書フェアでは、約2,000人の市民に約9,800冊のリサイクル図書を無償配布しました。	○
教育委員会事務局(2)	学校給食での地産地消	明石市産の海苔を毎月、学校給食に提供する	毎月1回明石市産の海苔を提供し、給食の会議で地産地消を積極的に奨励しました。	○
市議会事務局	事務局及び議員控室より出る紙類の分別を徹底する	可燃ごみの削減	事務局・議員控室のリサイクルボックスに古紙受入基準を明示、古紙リサイクルに取り組みました。	○
監査事務局	エレベーターの使用回数を減らす	2 up 3 downはエレベーターを使用しないように意識する	エレベーター側の出入口に啓発チラシを掲示し、使用しない習慣が職員に定着しました。	○
選挙管理委員会事務局	選挙における開票開始時間の繰上げ・開票時間の短縮	選挙における開票開始時間の繰上げ・開票時間短縮の調査、検討	道具類の見直し、新機材選定により時間短縮は可能と判明、次年度の導入を進めます。	○
農業委員会事務局	メモ用紙等の雑かみを回収、再生紙にまわす	紙ごみ回収の徹底	課に「紙ごみ専用」と表示した専用箱を配置し、職員のリサイクル意識が向上しました。	○
消防本部(1)	電気使用量の削減を徹底する	前年度比で電気使用量を削減する	休憩時間の庁舎内消灯、使用しない間のPC電源OFFを徹底、使用量削減に努めました。	○
消防本部(2)	庁舎より出る、紙類の分別の徹底を図る	可燃ごみの削減	古紙回収の分別状況を把握し、指導等を行った結果、可燃ごみを削減できました。	○

※達成度：各部局の年間自己評価 / ◎=期待を上回る、○=期待どおり、△=期待を下回る、×=未実施、- =完了済

（環境に有益な事務事業：46課106項目）

課名	事務事業名	H20年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
1. 環境教育・環境学習の推進				
生涯学習センター	環境教育・環境学習の推進	生涯学習センター・コミセンでの環境問題に関する市民講座の開催	ごみとリサイクル、エネルギー等の環境に関する講座を開催し、環境意識の向上に努めました。	○
ごみ対策課	環境副読本の作成（ごみ減量化推進事業）	環境副読本を作成し、授業用に、市内全校の小学4年生へ配布する	市内小学校30校の全4年生に副読本を配布、教員には概ね好評でした。	○
教育委員会事務局総務課	みんなで学校園を美しくする運動事業	運動の展開により教育環境を整備する	運動の趣旨はかなり浸透し、各学校園では、意欲的な実践活動が行われました。	○
明石商業高等学校	奉仕活動	地域環境美化	3年生が通学路（魚住駅～明商）のごみ拾い清掃を行い、地域環境美化に取り組みました。	○
予防課	防災センター運営事業	防災センターへの集客イベントの開催	秋の防火ポスター展（約800点の応募）、震災をテーマにした防災啓発イベントなどを行いました。	○
消防署	消防署運営事業	市民への防火意識啓発、自主防災組織等への訓練指導を実施する	防火指導及び訓練指導の実施により、市民の火災予防意識の向上に努めました。	○
2. 自然観察会や、環境学習のためのイベントの充実				
3. 環境活動拠点の設置・機能拡充				
コミュニティ推進室	環境活動拠点の設置・機能拡充	コミセンにおける啓発パンフレット等の配布機会を拡充する	全コミセンのパンフレット配布、市内4コミセンの清掃活動、高齢者大学の環境講座等を行いました。	○
環境保全課	環境共生啓発事業	環境学習支援制度の推進	水質測定キットや双眼鏡の貸出（5件）、講師派遣（3件）等を行い、学習を支援しました。	○
4. 遊休農地を活用した市民農園の整備				
農水産課	市民農園管理運営事業	市民農園候補地の選定	関係団体等との協議を経て市民農園を開設、市民に土と触れ合う場所を提供できました。	○

※達成度：各課の年間自己評価 / ◎=期待を上回る、○=期待どおり、△=期待を下回る、×=未実施、- =完了済

課名	事務事業名	H20年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
5. 人材の育成及び派遣				
地球環境課	環境共生啓発事業 （環境学習支援制度）	環境学習支援制度の推進	積極的に出前講座PRを行い、昨年7件を上回る、16回の講師派遣を実施できました。	◎
6. 市役所職員への環境に対する意識啓発の充実				
人材開発課	能力開発支援事業	新規採用職員研修での、環境問題に関するプログラムの実施	新規採用職員研修ステップ1で「環境問題への取り組み」の研修を実施しました（受講生16名）。	◎
地球環境課	E M S 運用事業 （環境管理研修）	E M S の取り組みを通じ、庁内職員の知識・技能習得と向上を図る	新規採用職員研修では、研修意見を集約し、提案事項として全庁的に周知しました。	○
7. 図書館における環境関連資料の充実				
社会教育推進課	図書館運営事業	環境問題の関心や理解を深める	82冊の環境関連図書を購入、環境月間にはポスターや関連図書を展示して啓発しました。	○
8. 自然に関する調査及び環境マップの作成と普及促進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 （自然に関するプロジェクト）	自然環境データ収集・整理、里山再生活動の推進	里山整備、ウォーキングイベント「明石の自然歩き隊」開催、啓発冊子作成等に取り組みました。	◎
9. 環境情報システムの整備推進とその効果的な運用				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 （年次報告書）	市民にわかりやすい年次報告書を冊子やwebで発行する	わかりやすさを重視するため、冊子内容を大幅に見直した年次報告書を発行しました。	○
ごみ対策課	ホームページの運営 （リサイクルプラザ運営事業）	ホームページによる積極的な情報発信（更新）	お知らせ等の情報を定期的に発信し、ブログでの継続的な書き込みを行いました。	○
10. 大気、水質、騒音及び有害科学物質等の監視・観測体制の充実				
政策室	地下水保全に関する事務	地下水保全について、条例の規定に基づく規制に取り組む	条例対象外の井戸設置にあたって、条例に準じて届出をするよう指導しました（2件）。	○
環境保全課	環境監視事業 （大気、水質、騒音等）	環境測定の実施	有害大気汚染物質（12回）、新幹線等の騒音・振動（22地点）等の定期測定を実施しました。	○
環境保全課	環境監視事業 （大気、水質、騒音等）	法に基づく大気汚染の自動測定、光化学スモッグ予報時の対応を行う	自動測定局での監視を行うとともに、光化学スモッグ注意報発令時の対応を行いました。	○
環境保全課	環境監視事業 （大気、水質、騒音等）	水質汚濁防止法に基づき水質汚濁の監視を行う。	市内4河川の監視や、明石海峡船舶事故による油汚染状況調査等を定期的に行いました。	○
11. 環境汚染物質などに関する調査・測定データの積極的な公開				
環境保全課	環境共生啓発事業	情報提供	環境の現況情報を掲載した冊子、「明石市環境の現況」を作成し、web等で公表しました。	○
12. 環境に配慮したライフスタイルの推進				
男女共同参画課	消費者フェア	環境に配慮したライフスタイルの推進	リサイクル工作紹介、省エネや地球温暖化のパネル等展示・ミニセミナーを実施し、啓発できました。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業 （ライフスタイルに関するプロジェクト）	環境マイスター養成講座の実施、布ぞうり・ふろしき教室の開催	環境フェアで布ぞうりの関連展示を実施、市民向けに布ぞうり教室を開催し、好評でした。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業 （エネルギーに関するプロジェクト）	自動販売機調査方法の確立、省エネ運転マニュアルの作成	毎月1回の定例会で目標について議論したほか、エコドライブの講習会等を開催しました。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業 （自然に関するプロジェクト）	自然環境データ収集・整理、里山再生活動の推進	里山整備、ウォーキングイベント「明石の自然歩き隊」開催、啓発冊子作成等に取り組みました。	◎
13. 環境影響評価の推進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 （エネルギーに関するプロジェクト）	自動販売機調査方法の確立、省エネ運転マニュアルの作成	毎月1回の定例会で目標について議論したほか、エコドライブの講習会等を開催しました。	○

※達成度：各課の年間自己評価 / ◎=期待を上回る、○=期待どおり、△=期待を下回る、×=未実施、- =完了済

課名	事務事業名	H20年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
14. 地域環境美化活動への市民参加の促進				
地球環境課	環境美化推進事業（散乱ごみ、ふん害の防止）	ポイ捨て・ふん害に対する啓発事業の実施	苦情のある地域のふん害防止パトロール（23回）、ポイ捨て防止キャンペーン等を実施しました。	○
地球環境課	環境美化推進事業（きらりん明石ポイ捨てバッテン運動）	関係団体と美化に関する集いを開催	地域との清掃（14回）、ポイ捨て防止パトロール（245回）、路上啓発シール貼付を実施しました。	○
環境第2課	屋外一斉清掃（ごみ収集運搬事業）	屋外一斉清掃の趣旨を自治会（町内会）に確認	1,536団体にて屋外一斉清掃を実施し、年間では877,910kgの収集実績になりました。	○
緑化公園課	公園維持管理事業	オープンスペースを都市公園とし、良好な都市景観の保全・創造を進める	公園愛護会による月例清掃、環境月間には一斉清掃（春246-秋248団体）を行いました。	○
緑化公園課	緑化推進事業（緑化思想の啓蒙）	明石駅前の緑化空間をよりよい形で市民に提供（苗1万株を植栽）	市民と行政が協働して、花の苗（10,710株）を植栽し、目標を達成できました。	○
15. 事業者による公害防止対策の推進				
環境保全課	環境に係る事業者への規制・指導事業	法令に基づく立入検査・届出受理（大気・騒音・振動等関係）	法令等に基づいて、大気・騒音・振動等に関する届出受理、立入検査を行いました。	○
環境保全課	環境に係る事業者への規制・指導事業	法令に基づく立入検査・届出受理（水質汚濁・土壌汚染関係）	法令等に基づいて、水質汚濁・土壌汚染に関する届出受理、立入検査を行いました。	◎
商工労政課	工場の設置届けに係る事務（工場立地の適正化）	準則に沿った工場の立地を促進	届出への問合せ対応（7回）を行い、事業所にスムーズな対応ができるようになりました。	○
予防課	予防活動事業（危険物規制）	事業所等危険物施設に対しての消防査察の実施（目標：60件）	事業所等の危険物施設への消防査察（72回）を実施し、目標比120%を達成できました。	◎
予防課	予防活動事業（一般予防・設備指導）	防火対象物の消防査察の実施（目標：80件）	事業所等の防火対象物への消防査察（78回）を実施し、目標比は98%でした。	○
予防課	自主防災組織活動支援事業	防災研修等の実施（目標40件）	救急講習会が増加したことで目標を大きく上回る156回の講習会を実施できました。	◎
16. 自発的な活動の支援				
コミュニティ推進室	自発的な活動の支援	各グループ、NPOの活動内容をより充実させる	環境がテーマの4団体の活動助成を行い、成果発表会では積極的な活動が見られました。	○
17. ごみの発生抑制の促進				
男女共同参画課	消費者カレッジ（子育て期）	環境教育・環境学習の推進	親子を対象に、自然エネルギーのパネル展示や実験、工作のミニセミナーを実施し、啓発しました。	○
大久保市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	会議室利用者へマナー向上を呼びかけることで、職員的环境意識も向上しました。	○
魚住市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	職員の呼びかけにより、会議室利用者の不必要な空調利用の申し込みが減りました。	○
二見市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	不必要な照明の消灯を実施し、会議室利用者にポスター掲示による啓発を行いました。	○
ごみ対策課	大規模事業所の減量・適正処理事業（ごみ減量化推進事業）	減量化計画書の提出義務づけ、基礎データ把握と指導用資料の収集	大規模事業所に一般廃棄物減量計画書の提出依頼、未提出事業所に指導を行いました。	○
18. グリーン購入の促進				
契約課	契約事務事業	グリーン購入推進の継続	H20年度の印刷発注では、グリーン購入基準に適合していない仕様書はありませんでした。	-
地球環境課	環境基本計画等推進事業（ライフスタイルに関するプロジェクト）	環境マイスター養成講座の実施、布ぞうり・ふろしき教室の開催	環境フェアで布ぞうりの関連展示を実施、市民向けに布ぞうり教室を開催し、好評でした。	○
住宅課	市営住宅維持管理事業	事業の推進にあたり環境面にも配慮する	市営住宅維持管理事業において、環境面に配慮した物品（消火器）の発注を行いました	○

※達成度：各課の年間自己評価 / ◎=期待を上回る、○=期待どおり、△=期待を下回る、×=未実施、- =完了済

課名	事務事業名	H20年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
19. 紙の使用抑制、リサイクルの推進				
総務課	文書管理事務事業（古紙回収）	H19年度比3%以上の古紙回収の実施（目標:97,911kg）	古紙回収の年間実績は128,890kgで、目標を大きく上回り、目標達成できました。	◎
情報管理課	共同運営による電子申請システム構築	電子申請システム、簡易申請システム利用促進、新規の電子申請手続を開始	事前準備が不要で、簡単便利に利用ができる簡易申請システムの運用を開始しました。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業（ライフスタイルに関するプロジェクト）	環境マイスター養成講座の実施、布ぞうり・ふろしき教室の開催	環境フェアで布ぞうりの関連展示を実施、市民向けに布ぞうり教室を開催し、好評でした。	○
ごみ対策課	再生家具展示会の開催（リサイクルプラザ運営事業）	平成19年度実施回数の維持（目標：年4回以上の開催）	マイカル環境フェア、あかし環境フェア等で再生利用家具の展示会（5回）を実施、好評を得ました。	◎
20. ごみの分別の徹底と資源化の促進				
ごみ対策課	プラスチック製容器包装分別収集モデル事業（分別収集細分化事業）	モデル事業の実施と分析	指定収集袋の配布等で、自治会等関係者には積極的に取り組んでいただきました。	○
環境第2課	ごみの分別収集と資源化の促進（ごみ収集運搬事業）	分別状況の悪いごみステーション把握に努め、分別収集の徹底化を図る	周辺住民、自治会等に啓発チラシを配布（90件）し、分別収集の徹底に取り組みました。	-
21. 生ごみ資源化啓発の促進				
ごみ対策課	ごみ減量推進員・協力員制度事務（ごみ減量化推進事業）	地域におけるごみ減量・リサイクル・適正分別の活動推進	H20年度の推進員、協力員と協働し、10月に「雑がみ収集の啓発」を実施できました。	◎
22. ごみ減量化に効果的な経済的手法に対する合意形成				
ごみ対策課	ごみ処理基本計画の進捗管理	ごみ処理基本計画の進捗管理	減量化目標値の達成状況把握、循環型社会形成推進地域計画の策定準備を行いました。	○
23. 公共事業における建設廃材、建設残土の再資源化の促進				
開発審査課	建設リサイクル法事務事業	発注者・元請業者への届出義務の啓蒙、啓発を強化	パンフレット配布、届出工事の現地パトロールを実施しました。今後は更にパトロールを増やします。	○
24. 資源集団回収活動の拡充及び支援				
ごみ対策課	再生資源集団回収助成事業	新規活動団体の登録増（目標：H19比10団体増）	新規団体の登録（6件）を行いました。頭打ち状態なのか、目標数には届きませんでした。	△
ごみ対策課	カレットびん集団回収（再生資源集団回収助成事業）	実施団体数の増（目標：H19比5団体増）	研修会等で団体登録を呼びかけるも、頭打ち状態なのか、目標には届きませんでした。	△
25. エネルギーの使用抑制、省エネルギー機器・設備の導入の推進				
管財課	エネルギーの使用抑制、省エネルギー機器の導入促進	冷暖房設定温度の遵守 夏季28℃ 冬季20℃	庁舎熱源を重油から天然ガスに更新、市民サービス向上と環境に優しい改修ができました。	◎
斎場管理センター	公用車の小型化	公用車の小型化	公用車の小型化でガソリン使用量を減らし、環境にやさしい事業を行うことができました。	○
大久保市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	会議室利用者へマナー向上を呼びかけることで、職員の環境意識も向上しました。	○
魚住市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	職員の呼びかけにより、会議室利用者の不必要な空調利用の申し込みが減りました。	○
二見市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	不必要な照明の消灯を実施し、会議室利用者にポスター掲示による啓発を行いました。	○
地球環境課	地球温暖化対策推進事業	地球温暖化対策実行計画の推進と、同地域推進計画の調査研究	実行計画に基づき、年次報告書でH19年度の市役所CO ₂ 排出量の公表などを行いました。	○
浄水課 工務課	原浄水施設整備事業 配水施設整備事業	浄水場等の電気使用量を27,500kWhにする（H15年度比5%削減）	効率的な運転により、電気使用量は約25,500kWhになり、目標を達成できました。	◎

※達成度：各課の年間自己評価 / ◎=期待を上回る、○=期待どおり、△=期待を下回る、×=未実施、- =完了済

課名	事務事業名	H20年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
26. 自然エネルギー、未利用エネルギーの利用促進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業（エネルギーに関するプロジェクト）	自動販売機調査方法の確立、省エネ運転マニュアルの作成	毎月1回の定例会で目標について議論したほか、エコドライブの講習会等を開催しました。	○
明石クリーンセンター	焼却施設運営事業	タービン発電機の高効率運転による発電維持（発電利用率70%）	焼却施設の適正な運転管理により、目標を上回る80%以上の利用率を維持できました。	◎
27. 公共交通機関の利用促進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業（エネルギーに関するプロジェクト）	自動販売機調査方法の確立、省エネ運転マニュアルの作成	毎月1回の定例会で目標について議論したほか、エコドライブの講習会等を開催しました。	○
道路計画課	駅周辺整備事業	駅周辺整備により、公共交通への転換を図る（3事業の整備）	駅周辺整備事業について、調整や状況に応じた計画の修正を行いながら取り組みました。	△
道路計画課	コミュニティバス運行事業	コミュニティバスによる公共交通機関の利用促進を図る（年間750,000人）	年間利用者数は717,971人と、目標比95.7%でした。運行内容の見直し等を行います。	△
運輸課	交通事業	バス利用促進啓発運動の実施	9月20日のバスの日に、車内吊り下げ広告の掲示、明石駅で啓発運動に取り組みました。	○
28. 自動車の適正な利用の推進				
環境保全課	環境共生啓発事業	自動車公害防止啓発事業の実施	自動車公害防止に係る啓発について、当初の計画どおり実施することができました。	○
道路計画課	道路整備事業	道路整備（6路線）整備により、環境への負荷を軽減する	目標の道路整備につき2路線が完了し、残りは次年度で継続して早期完成を目指します。	△
道路計画課	交通安全啓発・教育事業	交通安全教育・啓発活動（年間100回）により市民の意識向上を図る	交通安全教室、ビデオ貸出等を行い、年間で102回と目標比102%を達成しました。	○
29. 低公害車の普及促進				
管財課	公用車への低公害車の普及促進	ガソリン使用量の抑制	アイドリングストップ、自転車利用等を徹底、3台増車にも関わらず使用量は抑制できました。	◎
地球環境課	E M S 運用事業（低公害車導入計画）	計画に基づき、低公害車の導入評価ポイント12%を達成する	導入評価ポイント12%を達成、公用車購入の際は低公害車導入の確認（12件）を行いました。	○
水道部総務課	低公害車の普及促進	車両入替時に低公害車を導入、職員に環境に配慮した運転を周知	入替車両5台を低公害車とし、職員安全期間には安全運転の励行を職員に周知しました。	○
消防本部総務課	消防団施設整備事業	積載車の計画的整備、既存車両の安全運転で、環境保全に努める	受注者と連絡を密に取り、計画どおり積載車3台を更新、環境保全に努めました。	○
警防課	消防車両整備事業	規制対象車を更新、適合車両を適正に運行して環境保全に努める	水槽付消防ポンプ自動車の2台について、計画どおり更新し、環境保全に努めました。	○
30. 透水性舗装の導入による地下水の涵養				
道路計画課	歩道整備事業	歩道整備（11路線）により、安全・快適な歩行空間の確保を図る	地元調整に不測の期間を要し、目標中4路線が完了し、残りは早期完成を目指します。	△
31. 貴重な動植物の生息・生育地、樹木・樹林の保護指定				
地球環境課	環境基本計画等推進事業（自然に関するプロジェクト）	自然環境データ収集・整理、里山再生活動の推進	里山整備、ウォーキングイベント「明石の自然歩き隊」開催、啓発冊子作成等に取り組みました。	◎
32. 海域・砂浜等の保全及び河川環境の改善				
農水産課	栽培漁業推進事業	定着性の高い種苗を好適地に放流する	目標のヒラメ、オニオコゼ、産卵用タコツボの他、カサゴ、マコガレイ、マダイ、ウチムラサキ等を放流できました。	◎
海岸課	海岸施設維持管理事業	海浜地・海浜利便施設を清掃・維持管理し、憩いの海岸環境を維持	海浜地の清掃実施により、市民が憩える海岸環境を維持することができました。	○

※達成度：各課の年間自己評価 / ◎=期待を上回る、○=期待どおり、△=期待を下回る、×=未実施、- =完了済

課名	事務事業名	H20年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
32. 海域・砂浜等の保全及び河川環境の改善				
海岸課	夜間花火規制推進事業	環境基本条例に基づき、夜間花火規制を行う	のぼり設置、啓発放送、巡回警備による規制・啓発を行い、生活環境保全を図りました。	○
海岸課	アカウミガメ保護関連事業	関係機関と協力して、産卵された卵の保護、ウミガメ会議等を行う	明石で日本ウミガメ会議を開催、ウミガメ保護等を「明石宣言」として全国に発信できました。	○
海岸課	港湾環境美化事業	清掃の実施	東播磨港海岸、南二見防潮堤の清掃を実施し、港湾区域の環境美化に取り組みました。	○
下水道管理課	河川美化事業	河川区域の雑草を除去	県所管の2級河川（7河川）区域の雑草除去を行い、河川環境美化に取り組みました。	○
下水道管理課	排水路浚渫事業	河川水路の汚泥の除去、草刈	河川水路の汚泥除去、草刈を予定通り実施し、地域の生活環境保全に取り組みました。	○
33. ため池の保全及び整備				
農水産課	土地改良事業	明石市ため池協議会の充実	新たな協議会設立にむけて話し合いを継続してきましたが、設立に至りませんでした。	△
農水産課	土地改良事業	ため池清掃ボランティア“ため池清掃志隊”の組織化	積極的に清掃ボランティア募集を行い、参加者が5名増えて、清掃志隊は30名になりました。	○
緑化公園課	公園維持管理事業	中尾親水公園の維持管理	水質浄化のため池周辺清掃、噴水ポンプ点検を実施、水景設備の保守管理を行いました。	○
34. 里山等の市街地周辺の樹林及び市街地における樹木の保全				
緑化公園課	公園維持管理事業	オープンスペースを都市公園として担保し、景観の保全・創造を進める	樹木の剪定等により、見通しの良い公園とし、利用者の安全向上に取り組みました。	○
35. 学校や地域が一体となったビオトープづくりの推進				
下水道施設課	浄化センター維持事業	美化の推進	水のリサイクルを行う親水施設として開放しており、せせらぎ公園の清掃、草刈を行いました。	○
学校教育課	環境体験事業	本年度実施17校で情報交換をし、特色ある活動の推進、充実を図る	実施計画の作成、事前学習を経て事業実施、担当者会で次年度の方向性を決定しました。	○
学校教育課	環境教育・環境学習の推進	環境副読本を活用し、各校の特色を生かした環境学習を実施する	小・中学校に配布し、小学校では環境体験事業の事前学習資料として活用できました。	○
体育保健課	学校園庭芝生化推進事業	新規2校（小学校1、中学校1）、拡張2校（幼稚園1、小学校1）の実施	子どもたちが遊びたくなるような環境づくりとして、予定通り芝生化を行いました。	○
36. 減農薬農業の普及促進				
37. 公園や緑地の整備と拡充の推進				
38. 地域住民による自主的な住環境の保全の推進				
都市計画課	地区計画推進事業	住環境の保全や良好なまちなみの形成を図る	コミセン・自治会等へ積極的に地区計画制度の説明PRを実施、活発な意見交換を行いました。	○
39. 公共下水道整備事業の推進による公共用水域の水質保全				
環境第1課	し尿収集運搬事業	適正な、し尿収集運搬の実施	市民からの要望に応じて、適正にし尿の収集運搬が実施されました。	○
環境第1課	清掃総務一般事務事業（浄化槽の啓発）	浄化槽の適正な維持管理を指導・啓発する	浄化槽の不適切管理者に、適正な管理の指導を行い、必要性について理解を得ました。	○
下水道総務課	貸付金、助成金事務事業	水洗便所改造・浄化槽廃止の工事実施者に助成金の交付等を行う	地元説明会を行い、水洗化の理解を得ました。（助成金交付303件、資金貸付11件）	○
下水道総務課	安全衛生委員会事務事業	定期的に施設の安全点検を行い職員の安全意識を向上させる	毎月の安全衛生委員会、年4回の安全パトロールを実施し、安全意識の向上を図りました。	○

※達成度：各課の年間自己評価 / ◎=期待を上回る、○=期待どおり、△=期待を下回る、×=未実施、- =完了済

課名	事務事業名	H20年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
39. 公共下水道整備事業の推進による公共用水域の水質保全				
下水道管理課	管渠更生事業	開削工法の改築工事で、下水道管路施設の新たな耐用年数を確保	老朽管調査を実施し、腐食度・危険度等による優先順位を付け、改築工事を行いました。	○
下水道管理課	水洗便所普及事業	未水洗化世帯等に対する水洗化の普及促進を図る	未水洗家屋を戸別訪問し水洗化を勧奨（年間8,980件）、うち水洗化戸数は657戸でした。	○
下水道施設課	浄化センター維持事業	機器更新時、低動力機器を採用し省エネルギー化を図る	使用エネルギーの少ない汚泥脱水機を採用、処理量増加に伴う電気使用量を抑えました。	○
下水道施設課	浄化センター維持事業	放流水質がこれまでの変動範囲内となるよう、維持管理を行う	季節変動に応じた水処理を行い維持管理を行った結果、水質の苦情は出ませんでした。	○
下水道建設課	下水道整備事業	市街化調整区域等(清水新田他)の水洗化促進	汚水管未整備区域解消に向けて地元調整等を行い、3地区で工事を実施できました。	○
40. 道路その他公共施設や工場等での樹木等の植栽による緑化の推進				
緑化公園課	緑化推進事業	家庭等で不要となった樹木のリサイクル（目標：150本）	家庭等の不要な樹木を無償で引受け、目標を上回る232本を公共緑化に活用できました。	○
41. 建築行為や屋外広告物の景観に対する指導・助言				
道路管理課	屋外広告物簡易除却事務事業	関係機関との合同パトロールを実施	除去作業（年間：10,189件）の実施、合同パトロール等により、違反広告物を撤去できました。	○
都市計画課	景観形成事業	明石市都市景観形成基本計画改訂案の作成	予定の見直しがあり、次年度パブリックコメント実施のため、計画改定素案の作成を進めました。	△
42. 駐輪場の整備と放置自転車、違法駐車等の防止対策の推進				
放置自転車対策課	違法駐車防止対策事業	道路交通の円滑化と都市機能の維持・増進を図る	毎日のパトロール実施等により、違法駐車車両に対して、指導・啓発を行いました。	○
放置自転車対策課	放置自転車対策事業（放置自転車の整理・撤去・保管）	公共の場所での自転車等の放置を防止し、生活・交通環境を保持	平日に加え、土曜日にも市内主要駅の禁止区域等で放置自転車等の移動を行いました。	○
43. 有形・無形・民俗文化財等の指定と保存の推進				
社会教育推進課	文化財保護調査・啓発事業	遺跡、史跡、天然記念物等の指定と保存推進	文化財の案内板4本・標柱3本を修繕し、市内初の県登録文化財を記者発表しました。	○
44. 埋蔵文化財、文化的景観等の保護意識の啓発				
社会教育推進課	文化財保護調査・啓発事業	市民の文化財保護意識の啓発と「発掘された明石の歴史展」開催	「発掘された明石の歴史展」は過去最高の観覧者を記録、明石の文化財をPRできました。	○
45. 歴史的市街地における建物を中心とした景観整備、歴史的まちなみの保全				
道路計画課	電線共同溝整備時事業	電線類地中化による良好な都市景観形成、安全な歩行空間の確保	電線類地中化について、今年度は関係機関との調整が済み、工事を進めています。	○
都市計画課	景観形成事業	都市景観に対する啓発事業の実施	わがまちあかし十景のカレンダー、名刺台紙等を生かした啓発やウォーキングイベントを行いました。	◎
その他				
政策室	大規模小売店舗立地法に基づく意見調整に関する事務	法に基づく意見調整により、地域の生活環境保持に資する	県からの意見照会（7件）に、庁内関係部の意見をとりまとめ、適切に回答を行いました。	○

※達成度：各課の年間自己評価 / ◎=期待を上回る、○=期待どおり、△=期待を下回る、×=未実施、- =完了済

明石市環境レポート2009
平成20年度年次報告書
平成21年10月発行

編集・発行
明石市環境部地球環境課

〒673-0882 明石市相生町2丁目5-15
明石市立保健センター4階
TEL：078(918)5029 FAX：078(918)5107
e-mail：plan-ems@city.akashi.hyogo.jp



※この冊子は環境に配慮した古紙配合再生コート紙を使用しています。